

## ざま災害ボランティアネットワーク代表あいさつ

おはようございます。

皆様のご協力を得て、本日、第9回の定期総会を開催する運びになりましたこと感謝申し上げます。

昨年はこの会場で、4月14日、16日に発生しました熊本地震で被災された方々への黙とうをささげて総会を始めたことを覚えております。

あれから、1年、被災地では、いまなお、4万7千人を超える方々が仮住まいを続けておられます。さらに、ここ数か月 熊本県域での地震が増える傾向にもあります。

私たちは、発災直後から「クマモン缶バッジ募金」活動に取り組み、首都圏で活動している仲間と共に約80万円の義援金を熊本県へ贈ることができました。

7月には、益城町の避難所や福祉避難所で被災者の方々との交流を行い、傾聴活動をさせていただきました。また、本年2月には、阿蘇市、益城町の仮設住宅にお伺いして「たい焼き」を通じて「元気・笑顔」をお届けしてまいりました。しかし、あまりの被害の大きさにいまだ落ち着かない気持ちでおります。

2016年も社会を震撼させた事件や事故が多く発生しています。

1月には、軽井沢スキーバス事故で前途ある学生さんたちが命を落としています。

7月には、お隣の相模原市の身障者施設で19名の入所者が殺害されるという史上まれな事件も起きました。

8月には台風10号により東北、北海道で大きな被害が出て、岩手県岩泉町では介護施設で入所の方が命を落とされました。これは、防災用語が正しく理解されていなかったことも被害を大きくしたといわれています。

この台風の影響は、農業にも甚大な被害を与え、先日来、新聞をにぎわせている「ポテトチップス」の生産休止という思わぬ影響を我々に与えております。

火山活動も活発で、箱根の活動は一段落しましたが、2月、5月、7月と鹿児島県桜島の爆発、2月、10月には阿蘇山でも噴火が確認されています。

地震の動きは依然と収まらず、むしろ活発になるような傾向があります。

6月、北海道内浦湾でM5.3 函館市で震度6弱、

10月には鳥取中部で群発地震が起き、その後も断続的に揺れています。

私たちの身近でも、いまなお3・11の余震といわれています地震が続いています。

11月には福島県沖でM7.4、

12月にも茨城県高萩市付近で震度6弱の地震が起きています。

そして、いまなお記憶に新しい12月22日に新潟県糸魚川市で出火し折からの強風の影響もあり広域に延焼し140棟の建物が焼失する大規模火災が発生しました。

こうして、1年間を振り返ってまいりましたが、このような事件・事故は途切れることなく続き、詐欺事件、いじめによる自殺や最近では児童が被害者となった殺人事件などもあり不安な世相を垣間見ることができます。

交通事故は自動車の安全装置などの普及が進み、減少傾向がみられるといわれていますが、反面、高齢者の運転ミスによる事故は増える傾向があります。

私たちの団体の活動は、このような社会の中にある「災い」に対して出来る範囲で支援活動をするを目的として活動をしてまいりました。

今までは、自然災害に眼が行きがちでしたが、このように私たち自身が生活している「生活圏」の中で起きる「不安要素」に対して目を向ける必要も考えなければならないのかなと思うのであります。この点に関しては、後ほど新年度の活動計画の中でお話をさせていただきます。

私たち、ざま災害ボランティアネットワークの活動は、社会の変化に柔軟に対応してニーズに合わせる活動を展開してゆかなければならないと思います。地震災害の減少を中心とする活動は当然ですが、生活の中の「危機管理」という分野をとらえて「災い」から自分のそして家族の「いのち」を守る活動にも取り組む必要があるのではないかと思います。

そして、活動を積んできた中で、「生き残らなければ何も始まらない」という言葉を実現するためにより一層行政との連携を強めて市民の方々へ「危機管理」の意識の必要性を伝えてゆかなければならないと思います。

神奈川県には、災害啓発の活動を目指す団体はたくさんありますが、私が知る限りでは私たちの団体の方向性とその活動のための知識・技・装備を含めた対応力は先進的だと自負しています。

それは、「防災啓発」にとどまらずに、市民・学校・各種団体に向けての活動が「知識」だけでなく、生き残るための動作の普及、生き残った後の生きるための「技」について、わかりやすく具体的な啓発活動に取り組むところにあります。すなわち、「出す」「飲む」「食う」そして「電力の自助」であります。

災害の中を生き抜き、次の復旧・復興につなげるということは、防災の「知識」だけでは「その時」や「その場」を乗り越えることはできないと考えています。

防災知識を生き抜く技に変える、そして、その力を次の世代の方々へ伝えて、普及させてゆくことが私たちの団体の使命だと思っています。

東日本大震災をはじめ熊本地震の被災地の活動を通じて、私たちは大きな学びをしました。特に、大人の判断ミスで子どもたちの命を失わせることはあってはならないということです。大人は自分の責任で判断して結果は自分が背負えばよいのです。シェイクアウト行動をしたくなければしなくてもよいと思います。

しかし、子供たちはそういうわけにはまいりません。

災害時に弱くなる方々、いわゆる災害時要配慮者の中でも、特に、妊産婦、子育て中の保護者、乳幼児、児童さらに、障がいをお持ちの方々への当事者に対する研修を含めて市内外の方々とつながりながら危機管理の啓発活動に、愚直にひたすら取り組んでまいりたいと思います。

この後、2016年度（平成28年度）活動報告並びに2017年度の活動計画について皆様にお諮りしてご承認をいただき新しい年度の取り組みを始めたいと思います。

どうぞ、今年度も皆様のご協力をいただきながら楽しく歩みを進めて行きたいと思います。このことをお願いして私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。